

東北海区沿岸水温予報(2006年)

海域	経過 (2~4月)	現況 (5月~6月上旬)	見通し (6~8月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定地水温 2月:かなり低い~極めて低い 3月:平年並~やや低い 4月:平年並	定地水温 5月:平年並~やや高い 6月上旬:平年並	津軽暖流域の水温は平年並で推移する。 また、津軽暖流の東方への張り出しは平年並を維持する。	4,5,6月の日本海の本定線観測結果では、対馬暖流の流勢は平年並で推移している。 定置水温は3~6月上旬まで平年並で推移している。 よって、4月以降の津軽暖流の勢力は現況を維持するものと考えられる。	チョウザメが階上定置に入網(2月)、ノコギリザメが白糠の刺網に入網(2月)、アバチャン、スミツキアカタチが尻岩の底建網に入網(3月)
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水試発表)	2月 表面:全域で、やや低め~低め 100m深:沿岸・沖合の全域で、やや低め 3月 表面:全域で、平年並~やや低め 100m深:県北部沖合から県中部沖合にかけて平年並、その他の海域でやや低め 4月 表面:県中部沿岸、沖合でやや低めのほかは平年並 100m深:県北部沖合から尾崎沖合でやや高めのほかは平年並	5月 表面:県北部で平年並、そのほかの海域ではやや低め~低め 100m深:県北部沖合でやや高め、県中部から県南部沖合で平年並~やや低め 6月 表面:全域で平年並~低め 100m深:全域で平年並~低め	期間を通じて、全域で平年並~やや低めで推移する。	衛星画像(海面高度)で見ると、金華山沖に暖水塊は比較強固であり、津軽暖流の張り出しも遅れ気味であるため、今後も現在の状況が持続すると思われる。 100m深1ヶ月予測では、低め基調の平年並と予想された。	6月上旬まで県中部の定置網でマダラの漁獲が見られた。 6月上旬より、クロマグロの漁獲が始まった。 6月に県南部の定置網でホオジロザメが捕獲された。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水試発表)	2月には、沖合海域を中心に、表面・100m深水温とも平年よりやや低め~低めで推移した。 3月には、親潮系冷水に広く覆われるとともに、38°Nライン周辺の南部沖合海域に黒潮系水が波及し、この結果、表面・100m深とも冷水の分布する海域を中心に平年より低め、南部沖合海域ではやや高めとなった。 4月には、北部海域では表面、100m深ともに5以下の親潮系水に、南部沖合海域では表面・100m深ともに10以上の黒潮系水に覆われ、38°30'Nを境に、2種類の系水が明瞭に分布していた。水温の状況を平年と比較した場合、冷水の分布する北部海域を中心として表面・100m深ともに平年より1~3低めであり、これに対して黒潮系暖水が波及する南部沖合海域では、表面・100m深ともに平年より1~5高めであった。	5月には、141°50'E~142°30'E付近の38°N~38°30'Nでは、表面・100m深とも平年より1~2高めであったが、これ以外の海域では親潮系水の勢力が強く、表面で1~5低め、100m深では1~3低めであった。 6月上旬には、表面・100m深とも、38°30'~39°Nの142°E以東の北部沖合海域を中心に平年より低めで、特に3以下の親潮系水が100m深で観測された。 38°~38°30'Nの南部沖合海域では、表面・100m深とも、平年より1~3高めで、黒潮系水の北上が認められた。一方、沿岸域では全般的に平年並から1程度低めの状況であった。	142°30'E以東の北部沖合海域(39°Nライン周辺)では、平年より低めで推移する。 142°50'E以東の38°30'Nライン周辺では7月には平年より高めだが、8月には低めで推移する。 この他の海域では平年並又はやや低めで推移する。	「宮城県沿岸の海況予測モデル」により予測を実施した。(2006年6月の類似年は1993年6月と2001年6月であった)	6月に、142°30'E・38°30'Nの観測地点において、100~400m深で、2台の親潮系冷水が観測された。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	2月初旬に北からの親潮系冷水の強い波及がみられ、水温は平年より低めとなったが、波及は一時的なものにとどまった。3月には暖水の勢力が強まり、親潮系冷水の目立った波及はみられなくなった。4月も暖水波及が継続し、3~4月の水温は平年よりやや高めであった。	本県沖全域への黒潮系暖水の波及が継続し、5~6月とも水温は平年よりやや高めで推移している。	黒潮系暖水の波及傾向は期間後半に向けて弱まってゆくが継続し、水温は平年並み~やや高めで推移すると予想される。	黒潮系暖水の波及が継続している。100m深水温の統計解析から水温の偏差は海域全体で高め基調が継続するも徐々に弱まるとみられた。	コウナゴ漁は漁獲が継続せず、過去10年と比較して最も少ない水揚げとなった。 オキアミのまとまった魚群は4月以降みられず、漁場が形成されなかった。 3月以降黒潮系暖水の波及傾向が継続し、平年より極めて高い水温を観測した定点が多くみられた。
常磐南部 (鹿島灘 茨城県沿岸; 茨城水試発表)	2月から4月にかけて黒潮は南偏傾向を持続した。 2月は非常に強い親潮系冷水が南下したため沿岸の100m深水温は「やや低い」~「低い」となった。 3月は表層付近で親潮系冷水が後退し、暖水塊に覆われたため、100m深水温は「平年並み」へと変化した。 4月は前月の傾向を持続し、南部沿岸の100m深水温は「低い」となったが、海域全体では概ね「平年並み」となった。	5月から6月上旬にかけて黒潮は南偏傾向を持続した。 5月の本県海域は黒潮系暖水に広く覆われ、100m深水温は「平年並み」~「やや高め」となり、南部沖合の海域では「低い」となった。 6月上旬は黒潮系暖水の波及がみられるが、黒潮の南偏傾向が継続した影響から、100m深水温は北部海域の一部で「やや高い」となったものの、その他の海域では「平年並み」~「低い」となった。	黒潮の南偏傾向は持続するが、黒潮系暖水の波及が継続と思われる。したがって、しばらくは6月上旬の傾向を持続すると推測される。しばしば、黒潮からの強い暖水波及で一時的に大幅に昇温する可能性もあるが、概ね北部海域で「平年並み」~「やや低い」、南部海域で「平年並み」~「低い」で推移すると推測される。	都井岬沖に小蛇行が見られるものの、本海域まで影響を及ぼすのはまだ先と考えられる。したがって期間中に黒潮の南偏傾向が解消する要素は、現在のところ特にない。	例年ではシラス(暖水性)の漁獲が良いと、オキアミ、コウナゴ(冷水性)の漁獲が悪く、逆にシラスの漁獲が悪いと、オキアミ、コウナゴの漁獲が良い。今年はシラス、オキアミ、コウナゴのいずれの漁獲も悪い状況である。

各階級の水温年平均偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4 ~	+4.0 ~	+6.0 ~	+2.4 ~	+4.0 ~	+4.0 ~
高い(7.5%)	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	4.0～+5.9	+1.6～+2.3	+2.5～+3.9	+2.5～+3.9
やや高い(20%)	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	1.5～+3.9	+0.7～+1.5	+1.0～+2.4	+1.0～+2.4
平年並み(40%)	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	1.4～-1.4	+0.6～-0.6	+0.9～-0.9	+0.9～-0.9
やや低い(20%)	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	1.5～-3.9	-0.7～-1.5	-1.0～-2.4	-1.0～-2.4
低い(7.5%)	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	4.0～-5.9	-1.6～-2.3	-2.5～-3.9	-2.5～-3.9
極めて低い(2.5%)	-2.4 ~	-4.0 ~	-6.0 ~	-2.4 ~	-4.0 ~	-4.0 ~